

< 目次 >

- 1 【復興支援】 学校再開に向けたガイドラインについて
 - 2 【教育振興】 平成22年度教育振興運動推進状況調査より
 - 3 【編集後記】 あつしのひとりごと
-

1 【復興支援】 学校再開に向けたガイドラインについて

4月最終週に、被災市町村の各学校でも始業式・入学式がおこなわれ、ゴールデン・ウィーク明けからは本格的に学校生活が始まります。また、被災地より避難してきた児童生徒を迎えて新学期をスタートさせた内陸部の学校も多いことでしょう。

子ども達への支援や今後の学校教育のあり方は、被災した沿岸市町村のみならず、全県の課題として学校関係者、地域住民、教育行政が考えていかなければならないものです。

被災後の子どもの中には、地震ごっこや津波ごっこ等の「災害遊び」をして遊ぶ子どももいます。周囲の大人からは、不快に感じ、非常識にも見えますが、子どもたちは辛い経験を忘れるのではなく、遊びながら乗り越えていくのだといわれています。

大人は、この遊びが言葉にできない気持ちを整理する意味で重要であり、厳しい現実を目の当たりにした子どもが自分の心を癒そうとする行動であると理解する必要があります。そして、「怖かったね」、「みんなで力を合わせたね」などと子どもの気持ちに寄り沿う言葉をかけてあげましょう。

県教育委員会では、3月31日に『学校再開に向けたガイドライン（初版）』を作成し、各市町村教育委員会等に配布しています。この中には、上記のような被災した子どもたちへの配慮事項も記載されていますので、参考にしてください。

さい。

2【教育振興】平成22年度教育振興運動推進状況調査より

前号では、平成23年度教育振興運動の推進に係る県事業の縮小をお知らせしました。毎年5月に実施し、前年度の推進状況と現年度事業の方向性について確認していた「市町村担当者研修会」は、今年度開催しないこともお伝えしました。

そこで、前号でお伝えした平成23年度事業の方向性に続き、本号は平成22年度教育振興運動推進状況調査の結果をお知らせします。教育振興運動は、運動を推進するための実践地区のみならず、PTAや子ども会、市町村民会議等の組織においても展開されているところですが、この調査は、教育振興運動を推進する実践地区から回答をいただいたものです。

教育振興運動は、県内すべての市町村において展開されていますが、推進する実践地区数は減少傾向にあり、平成22年度は489地区となりました。地区の規模は、小学校区が48.8%、中学校区が16.1%となっており、学校区での活動が64.9%を占めています。

実践地区における活動内容として最も多いのは「学習活動」で、その内訳は“学力向上（家庭学習の充実）”に取り組んでいる地区が362地区（取組率74.0%）、“読書活動の推進”に取り組んでいる地区が410地区（取組率83.4%）ありました。

この結果は、児童生徒の学力向上を目的に始まった教育振興運動本来の趣旨が脈々と受け継がれていること、また平成21年度より展開している「全県共通課題」の成果が現れていることを示しています。

学校は、家庭や地域との連携により「まなびフェスト」を推進しています。“家庭学習の充実”や“読書活動の推進”を位置づけている「まなびフェスト」を、学校・家庭・地域の協働により取り組むことは、すなわち教育振興運動の「学習活動」に取り組んでいるということです。

教育振興運動ということで必要以上に構えることなく、目の前の教育課題解決

のために、それぞれの立場で何らかの取り組みをすることが、運動そのものであるというふうに意識を変えていくことが大切です。

調査項目の中で、市町村における運動推進上の課題・悩みは、3年連続で「運動の活動者が限定されている」ことでした。また、市町村の教育課題の上位3つは、「家庭の教育力の向上」、「学校・家庭・地域の連携」、「子どもの学力向上」です。

体験活動等の他の活動も大切ですが、今、課題であるとされているこれらを解決することこそが急務であり、「全県共通課題」に組織的に取り組むことで、推進上の課題や市町村の教育課題のすべてが解決に向かうものと考えられます。

調査結果 1⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/22tyousahyou.pdf>

調査結果 2⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/22tyousa6years.pdf>

全県共通課題の結果

⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/22kadaijissi.pdf>

3【編集後記】あつしのひとりごと

5月5日（木）こどもの日。読売新聞の紙面に「今、子どもたちを笑顔にするために、読んであげてください。」と“だいこんとごぼうとにんじん”と“一休さんのとら退治”のふたつのお話が掲載されていました。

絵本や児童書を被災地に届ける活動が展開されていますが、まだまだ十分とは言えません。新聞紙面を使って読み聞かせを奨励したのは、日本ユニセフ協会でした。また、日本ユニセフ協会は、「ちっちゃな図書館プロジェクト」を展開し、被災地に絵本や児童書を届ける活動もおこなっています。

※送付希望の申込先； F A X 03-5789-2036 E-mail；jcuinfo@unicef.or.jp

⇒ 届け先の郵便番号、住所、名前、電話番号、希望数量（0-6歳児用、7-14歳児用別に）を添えて、申し込んでください。

被災して図書を失った小学校・幼稚園・保育園・公立図書館や避難所等を送り先として市町村教育委員会から申し込んでも良いのではと思います。

また、県教育委員会では、昨年度「いわての中高生のためのおすすめ図書100選（愛称；いわ100）」を作成し、県内すべての中高生に配布しました。県内の各学校図書館や公立図書館では、中高生に読ませたい図書の選書基準としてこのブックリストを活用し、100冊をそろえていただきたいと思います。

「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/iwa100rist.pdf>

⇒ 第45号は、5月24日（火）配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★バックナンバー（第1～43号）はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_zi.html

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_s.html

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

~~~~~